

## 目的

衣服には機能性はもとより、外観形態を整えるためのゆとりが必要であるが、それらを作り出すところの、平面的な布地に対する立体化のためのダーツやギャザーなどが不可欠である。最近、赤外線やレーザーを利用した非接触の計測装置にコード化パターン光投影式の形状計測装置の開発に伴い「コード化パターン光投影式非接触3次元形状計測装置による計測とその評価法」としてフレアスカートの形態計測を前報にて報告した。それに引続き今回はベーシックなストレートスカートの立体化に対応するためのダーツの位置と量による効果について、その形状変化から考察を試みたので報告する。

## 方法

試料は織物による布のせん断や伸び、曲げ硬さなどによる影響を考慮にいれ、薄手フェルトを用いた。パターンは、満清一氏がキブリス9号による立体裁断により求められたスローパーを基準として、ダーツ位置、並びにダーツ量に変化を加えたパターンを製作した。これらスカートをボディに装着させ、非接触3次元形状計測装置によって4方向から計測を行った。

## 結果

ダーツの位置と量のちがいによりゆとり形状に変化がみられた。すなわち、ダーツ位置を中心よりに移動することによってゆとり形状は前後径に増し、体側に移動することによって横径に増加し、これらゆとり形状の変化が外観にも影響を及ぼすことが確かめられた。